

やまなし社会資本整備重点計画（第五次） 骨子案（概要）

目的

限られた財源の中で、社会資本整備を効果的かつ効率的に実施し、県民生活の安定と向上に寄与する。

計画期間

5年間（令和8年度～令和12年度）

想定事業量

概ね 5,000 億円

※今後の資材価格・人件費高騰等の影響については、適切に反映

現状と課題

- 人口減少と急速な少子高齢化により、建設産業の将来における担い手不足が深刻化するとともに、地域のインフラを支える技術職員も不足している。併せて、インフラの老朽化が加速度的に進行しており、地域社会が存続の危機に瀕している。
- また、農業や林業においても、人口減少に伴う担い手不足が深刻であり、地域産業の持続・発展のための取組が必要。
- 一方で、暮らし方・働き方やニーズが多様化するとともに、賃上げと投資が牽引する成長型経済への転換期を迎えており、これを支える基盤整備が求められている。
- 加えて、近年の気候変動に伴い、自然災害が激甚化・頻発化しており、短時間強雨や記録的な降雨・降雪、台風による水害や土砂災害はもとより、本県に甚大な被害をもたらすと想定される南海トラフ地震や富士山噴火への備えも必要となっている。
- これらの課題に対応するためには、人口減少社会に適応した持続可能な社会資本整備の視点に加え、環境面（グリーン社会の実現）、技術面（新技術・DX）を踏まえた横断的な視点と連携が求められる。

重点分野・目指すべき社会像

社会資本整備から目指す！県民一人ひとりのウェルビーイングの実現

～活力があり快適で、安全安心なやまなしを未来へつなぐ～

「はじまるやまなし」

活力
成長

- 他圏域及び県内拠点間の連携強化
- 地域観光資源の利活用
- 効率的な林業の施業、農業競争力の強化 ほか

目指すべき社会像

交通ネットワークや山梨の持つ豊かな自然を活かし、活力があり、人々の活動と地域の成長がはじまる社会が構築される。

「まもるやまなし」

防災
減災

- 流域治水の推進
- 自然災害からの生命・財産の保護
- 地域防災力の強化 ほか

目指すべき社会像

地域全体で防災・減災に取り組み、災害への備えも整い、県民の生命と財産がまもられ、安心して生活できる社会が構築される。

「つなげるやまなし」

持続
スマート

- 持続可能なまちづくり
- 将来像を踏まえたインフラの再構築
- インフラ整備を支える基盤の強化 ほか

目指すべき社会像

インフラが適切に機能するなど、まちをあるべき姿で未来へつなげ、人口減少社会に適応した持続可能かつスマートな社会が構築される。

社会資本整備を効率的に進めるための施策

（環境面（グリーン社会の実現）・技術面（新技術・DXの活用）・官民連携・地域住民の参画 ほか）